

第8回 うらそえ青年祭

9月27日（日）、第8回うらそえ青年祭が浦添市運動公園陸上競技場で開催されました。市内各地で活躍している青年会11団体が力強い演技を披露し、会場に詰め掛けた大勢の観客を魅了しました。

華麗な演舞が
浦添の夜を彩る



屋富祖青年会

副会長 仲宗根さん(19歳)

副会長 玉城さん(19歳)

浅野浦青年会

会長 仲里さん(25歳)

屋富祖青年会は今回が初出場で、しかもトップバッターでの演舞でした。演舞で恥をかかないか心配でした。青年祭の前日は緊張で眠ることができませんでした。初出場でしたが来年に向けての人数や隊列などの課題が出てきたので今後もがんばりたいです。

浅野浦青年会は2年ぶりの出場でした。浅野浦でエイサーがしたいということで青年を集めての復活。プランクがあるため力不足は感じましたが地謡2人になったので良かったです。今後は自分達の後輩を作っていけるように頑張っていきたいです。



浦添市移民史便り

第10回

～平成21年度 第40回 南洋群島慰霊墓参 並びに親善交流の旅～

今回の浦添市移民史便りは、去る5月に実施された、「平成21年度 第40回 南洋群島慰霊墓参並びに親善交流の旅」について報告します。

浦添市編集委員会では、次年度以降実施予定の旧南洋群島調査に先立ち、浦添市移民史編集委員会の石川朋子委員と編集事務局の前津政廣（図書館奉仕係主査）と宜野座輝美（沖縄学研究室嘱託員）の3人で墓参団に随行してフィールドワーク（現地調査）を行いました。

問い合わせ
浦添市立図書館沖縄学研究室 ☎876-4946

随行調査の目的

戦前、日本の統治下にあった、現在の北マリアナ諸島自治領・パラオ共和国・ミクロネシア連邦・マーシャル諸島共和国にあたる地域は、「南洋群島」（以下、旧南洋群島）と呼ばれ、戦前の沖縄県人の主な移民先地のひとつでした。そこでは多くの沖縄県人が現地へ渡り、サトウキビ栽培や漁業などで生活を営んでいました。

最後の「南洋群島慰霊墓参 並びに親善交流の旅」

戦後、旧南洋群島から沖縄へ引き揚げてきた人々は、現地で犠牲となった方々の慰霊

そして、生き残った沖縄県人は日本の敗戦に伴い、強制的に沖縄へ送還されることになりました。

そのため、現地に後継の世代がおらず、当時の現地のことを知っている方の証言や、現地での説明を聞くことが重要になります。

参の旅は今年で最後になりました。出発から3時間後、飛行機の窓からサイパン島・テナアン島が見えると、機内からは、歓声が湧き立ちました。到着後、参加者は空港で、北マリアナ政府観光局から歓迎を受けました。



結団式の様子

供養や、自身の「ふるさと」である現地を訪ねたいという思いから、「南洋群島慰霊墓参団」を組織し、サイパン島・テナアン島・ロタ島を中心に現地を訪問する「南洋群島慰霊墓参並びに親善交流の旅」を実施してきました。

現地住民との交流

慰霊墓参の旅は、戦没者に対する慰霊供養を行うとともに、毎年、現地の住民の方々と交流を行ってきました。その結果、各島の追悼式には、現地の住民の方々も出席し、戦没者に祈りを捧げてくれています。



追悼式の様子

また、テナアン島の追悼式では、儀衛光男市長から追悼の言葉が述べられ、その後、沖縄県人の子弟が多数在籍していた(株)南洋興発附属専習学校の追悼式も執り行われました。

慰霊墓参の旅の今後

慰霊墓参の旅の参加者からは、「今年で最後になるのは残念」と、最後の慰霊墓参を惜しむ声が聞かれました。

これまで「南洋群島慰霊墓参並びに親善交流の旅」を主催してきた南洋群島帰還者会は、公式での慰霊の旅は今回で最後とするものの、今後も何らかの形で旧南洋群島への旅を続けていきたいとしています。

平成21年度沖縄学講座（第6回）

「宜保蒲太―南米移民賭博師イッパチの生涯 移民史の演劇運動と市民参画―」

日時 11月21日（土）午後2時～4時
場所 浦添市立図書館2階視聴覚室
講師 大城和喜氏（南風原町教育委員会生涯学習文化課長）

受講料 無料

どなたでも参加できます。皆さまのご来場をお待ちしております。